

越生駅すてきな交流拠点整備事業

越生駅西口総合案内所「^{どうかん}道灌おもてなしプラザ」

—No.44 越生町—

【事業の目的】

町の玄関口である越生駅西口に、観光・ハイキング、移住・定住の拠点となる施設を整備し、都市と地方の交流を活性化し関係人口を増加させることを目的としています。

【事業の内容】

ハイカー・観光客へのおもてなし拠点機能に加え、移住を希望する方が気軽に相談できる窓口、観光写真や陶芸作品を発表できるミニギャラリーを整備することで、都市と地方の素敵な関係人口の増加を促進します。

建設された施設は、越生産の西川材（埼玉県産材）や伝統の建具（組子細工）を随所に取り入れた木造平屋建167㎡となっています。

越生町は、太田道灌ゆかりの地であり、別事業で駅前に整備した太田道灌像にちなみ、施設の愛称を「道灌おもてなしプラザ」としました。

【事業年度】

令和元年度〔設計〕～令和2年度〔建設〕（2か年）

【予算額(千円)】

62,309千円〔令和元年度～令和2年度〕

うち53,186千円〔令和2年度分〕

【財源】

ふるさと創造資金（県）、ふるさと創造貸付金（県）、一般財源（町）

【事業実施に至った背景・経緯】

越生町では、平成28年に全国初となる「ハイキングのまち」を宣言し、ハイキング道や案内板など環境整備を進めています。

そのような中、平成31年3月に越生駅の東口および東西自由通路が開通し、同時に JR 東日本の駅舎が無人化となり町に譲与されることとなりました。

駅は観光客・ハイカーに限らず、電車で町を訪れる全ての人を出迎える玄関口であるため、各種の案内業務や情報発信が課題となりました。

そこで、越生梅林・黒山三滝やハイキングコース等の観光案内に加え、空き家バンクなどの移住相談もできる窓口、観光写真や陶芸作品など様々な展示ができるミニギャラリーと交流待合スペースを設けることで、越生町の玄関口に相応しい施設を整備することといたしました。

【事業のPRポイント】

当施設は、越生駅西口に直結しており、乗降客が気軽に立ち寄れる交流待合室、案内相談室、ミニギャラリーから構成されています。

交流待合室には、樹齢180年のヒノキの大木を製材した直径40cmの梁はりを使うなど、越生産の「西川材」を随所に利用しています。また、伝統の建具や組子細工も取り入れ、越生町が古くから木材の町であることもPRしています。（西川材：江戸の西の方の川から来る木材。地域団体商標）

更に、江戸城を築いた室町時代の名将「太田道灌おおたどうかん」は、越生町で誕生したと伝えられ、駅近くには逸話の地「山吹の里歴史公園」もあることから、別事業で駅前に太田道灌像の建立も行いました。これらのことから、越生駅西口総合案内所の愛称を「道灌おもてなしプラザ」と名付け、広くPRも行っています。

【事業実績・成果・今後の展開】

令和3年1月のオープンからは、（一社）越生町観光協会の事務所も入りスムーズな案内業務に繋がっていきます。将来的には指定管理者制度を導入し柔軟なサービス展開を行っていく予定です。

また、越生産の西川材や建具のPRを行うことで、林業・製材業・建具製造業など産業の活性化にも繋がることを期待しています。

【参考資料】

越生駅西口総合案内所 道灌おもてなしプラザ パンフレット

〔 連絡先 〕

企画財政課 企画担当 049(292)3121 (内線221)

ハイキングのまち



越生町のマスコット「うめりん」

平成28年4月29日に全国で初めてハイキングのまち宣言をしました。豊かな自然、多くの歴史文化遺産、観光資源に恵まれているため、一年を通してハイキングが楽しめます。



越生梅林

関東三大梅林のひとつ
町内一帯で2万本の梅を栽培



上谷の大クス

県の天然記念物
幹周り15m、樹高30m、
樹齢1千年以上は関東1位

黒山三滝

男滝、女滝、天狗滝の総称
春の新緑、夏の清涼、秋の紅葉は格別



オーパークおごせ

宿泊、BBQ、スパなど楽しめる
リゾート型複合施設



ニューサンピア埼玉おごせ

温泉、テニスコート、プール、
スポーツ施設を備えた宿泊施設

梅と柚子のまち

梅、柚子ともに生産量は県内1位。昭和62年から第3セクター(株)越生特産物加工研究所が6次産業化による梅と柚子の商品を製造販売している。お土産におすすめです。



梅干



ギフトセット



元気百梅



ゆず之介

梅・ゆずジャム

越生駅から徒歩1分のOTIC(特産品販売所)でお求めいただけます。

列車で

JR八高線、東武越生線 越生駅西口(道灌口)



お車で

- 関越自動車道 鶴ヶ島ICから約30分
坂戸西スマートICから約20分
- 圏央道 狭山日高ICから約30分



[お問い合わせ]

〒350-0416
埼玉県入間郡越生町大字越生386-8
TEL 049-292-1451 FAX 049-292-1456

この施設とパンフレットは埼玉県ふるさと創造資金を活用しています。

埼玉県ふるさと創造資金



おごせ 越生駅西口総合案内所

道灌おもてなし プラザ



ここからはじまる癒しの郷
越生町



越生駅西口総合案内所 道灌おもてなしプラザ



交流・待合室



案内・相談室



案内・相談室

観光、ハイキングコース
宿泊、食事処などの案内
越生町観光協会 [検索](#)

移住相談

空き家バンクの紹介
越生活 [検索](#)

ミニギャラリー

各種展示会、イベント開催
有料貸出

ミニギャラリー



西川材と建具

西川材は越生町・毛呂山町・日高市・飯能市にまたがる山林から産出される杉・桧の総称。「江戸の西の方の川」から来る木材という意味から西川材と呼ばれます。気象条件や土壌が生育に適し、材の色艶が良く木目の整ったブランド木材で、柱を始め建具や組子細工の製造に使われています。

交流待合室には樹齢180年の桧の大木を製材した直径40cmの梁を使うなど越生の西川材を随所に使用しています。

お気軽にご相談ください！

おた どうかん 太田道灌 生誕の地



江戸城を築いた室町時代の名将で、越生町龍ヶ谷の山枝庵で誕生したと伝えられます。山吹の里は、若き道灌が鷹狩りの際、にわか雨に遭い「蓑」を借りた貧しい民家を訪ね、出てきた少女は何も言わず一枝の「山吹」を差し出しました。道灌はその意味が分からず、後に「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」の古歌を知り、「蓑がない」悲しさを山吹に託した少女の想いを知りました。己の不知を恥じた道灌は歌道を志し文武両道の名将になったという逸話の地です。